

CASBEE神戸ver.2 キューピー神戸工場新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2		■評価ソフト: CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート 竣工段階		欄に数値またはコメントを記入				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.32</b>			<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15	-	-	3.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		<b>4.6</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	開口部遮音 T-2等級	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能 D42相当	4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.8</b>	0.35	-	-	3.8
2.1 室温制御		<b>3.5</b>	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	外壁U=0.468,屋根U=0.624,カーテンウォールSC=0.33U=2.11,窓	5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式	事務所エリアに放射空調を採用	<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	-	-	3.6
3.1 昼光利用		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率3.596(6階事務室)	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	トップライトによる共用ゾーン(見学者ホール等)への積極的昼光利用	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	全般照明で照度は500ルクス、事務所は700ルクス	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	外気導入は屋上、排気は各階外壁からとして計画	5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.6</b>	0.40	-	-	<b>4.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペースが9.79㎡	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	事務所112VA/㎡ 3階にテナント用サーバー室を設置	5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高3m以上、全ての執務者が十分な屋外情報を得られる窓を設	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュルーム+自動販売機を設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	コンセプトに基づき内装計画をおこなっている。	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理のしやすい外装・内装計画としている。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	IFエコステーションに管理機能を設置している。	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.3</b>	0.30	-	-	<b>4.3</b>
2.1 耐震・免震		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性	耐震性能を各段に向上させる免震構造を採用している。	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能	内部設備や什物の保護を目的とした免震構造を採用している。	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	品質確保促進法等級3同等の耐用年数を有している。	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			4.0	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具、工水濾過設備を計画、受水槽に水栓設置	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電機設置、電気室、通信関連室は浸水レベルよりも上部に	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	光、メタルケーブル引込、通信関連室は浸水レベルよりも上部に設置	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	-
1	階高のゆとり	階高4.7m	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.19(6階にて算定)	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり		10000~15000N/m <sup>2</sup> ただし大梁や地震用荷重を床用より低減してい	4.0	0.30	4.0	-	-
3.3 設備の更新性			4.6	0.40	-	-	-
1	空調配管の更新性	設備配管スペース+歩行天井により仕上げ材を痛めることなく更新可	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性	PS、設備室に将来配管スペースを確保	4.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性	設備配管スペース+歩行天井により仕上げ材を痛めることなく更新可	5.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性	設備配管スペース+歩行天井により仕上げ材を痛めることなく更新可	5.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性	外壁に機器搬入用扉を設置	5.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保	水熱源室ユニットの将来スペース確保により機能を止めることなく更	4.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		神戸港カラ―作戦ガイドラインに沿った景観配慮をおこなっている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		一般を受け入れる工場見学エリアを中心に地域貢献を実施している	5.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率64.9%、日影水平投影面積率10.9%、屋上緑化、歩行者暑熱環境	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.04	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		見学エリアトランプライトによる自然光の直接利用	4.0	0.12	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		設備BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	4.6	0.60	-	-	4.6
		集合住宅以外の評価(3a.3b)	4.6	1.00	-	-	-
		集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	-
4 効率的運用			4.5	0.24	-	-	4.5
		集合住宅以外の評価	4.5	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング		電力、上水、蒸気、工水、空調熱量を建築設備、生産設備毎に計量	5.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制		エネルギー消費量の目標値は既存工場の50%を目標	4.0	0.50	-	-	-
		集合住宅の評価	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水型器具を採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	-
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-
2		雑排水等利用システム導入の有無	4.0	0.30	-	-	-
工業用水処理システムの採用			4.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減		機械式定着筋、杭頭半剛接合による杭頭鉄筋の省略、ドロップハンチ	5.0	0.11	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電気炉酸化スラグ骨材の採用	5.0	0.22	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		高速シートシャッター、タイルカーペット、ロックウール化粧吸音板の採	5.0	0.22	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ほぼ全てが分別が容易(躯体+軽鉄+仕上)、OAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	-
1		消火剤	-	-	-	-	-
2		発泡剤(断熱材等)	4.0	0.50	-	-	-
3		冷媒	3.0	0.50	-	-	-
スタイロフォーム(ODP=0、GWP=3)を使用している。			4.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO <sub>2</sub> 3.4	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			4.4	0.33	-	-	4.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器が無い	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		水熱源による「熱融通システム」採用により、大気の温熱環境負荷を	4.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.6	0.25	-	-	-
1		雨水排水負荷低減	-	-	-	-	-
2		汚水処理負荷抑制	4.0	0.33	-	-	-
3		交通負荷抑制	5.0	0.33	-	-	-
4		廃棄物処理負荷抑制	5.0	0.33	-	-	-
ごみの日常計測、分別回収、ビンカン類の減量化対策を計画してい			5.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1		騒音	3.0	1.00	-	-	-
2		振動	-	-	-	-	-
3		悪臭	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-	-
3		日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	-
2		昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-
		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	-
			3.0	0.30	-	-	-